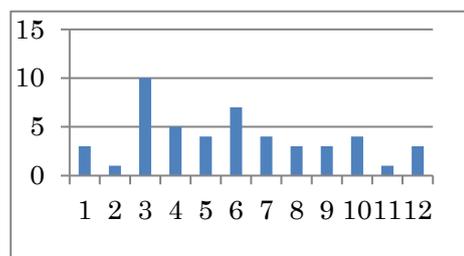


12.6 自然災害は何月に多く起きていたか

自然災害はいつ起きるかわからないとはいえ、いつごろ起きることが多いのか知りたいような気がします。というのも、あの2011年の東日本大震災の時は3月初めで雪もちらつく寒いときでした。空が暗く震えるような外気は災害の悲しみが何倍にもなるようでした。これが夏だったらまだ何か違っていたように感じました。

水害は大体どの時期に多いのかの見当は付きますが、地震はどうでしょうか。土砂災害は地震でも豪雨でも大きな影響を受けますので、発生する時期としての傾向はないような気がします。右の図は理科年表に取り上げられている1978年～2022年に発生した地震についての月別の発生回数を示したもので



す。つまりいつでも起きているということですが、それ故に災害の大きさはもちろんですが、複数の災害が重なってしまうことが恐ろしいような気がします。重なることで、被害が拡大することになりますので、後遺症が心配になることと、避難するにしても何をどう優先するのか、という判断が大事なことになると思われます。また、救助、救援も困難になってきます。

複合災害の被害が多様化する中で、個人的な判断ではなく、共助として地域単位で対応することが必要になると思います。複合災害では、特に地域特性が大きな要因になるわけで、地域知をしっかりと理解して、即断して知恵や工夫が必要となりますので、地域の防災リーダーが全体を俯瞰して的確な指導をしていくことも、頭に入れて備えをしていくことが望ましいと思います。

そして、複合災害は被害もそうですが、復旧や復興も時間がかかることとなります。平常時から地域が災害に関心を持って、自分達でできることはするということが大事になります。なにからななまで行政任せというような意識でいると、いざ災害が発生した時に不満や文句だけがうっ積することになります。自分たちの地域は自分たちで守っていくことを当たり前にしなないといけないわけで、町内会もそうですがさまざまな形で協力参画するという前提にして備えることです。

複合災害で注目すべきことは、土砂災害が絡むことです。豪雨は地山の性質を変化させ、地震は大きな外力によってぜい弱なところを顕在化させる作用が働きますので、土砂災害が発生しやすくなります。ハザードマップなどで警戒区域や特別警戒区域と指定されているところは注意しておく必要があります。また、どの段階で避難をするのかというタイミングも大切になりますので、発生時に発信される情報を正確に読み取って、より安全な方法を選択する必要があります。いずれにしても、専門家の協力を得て、平常時から災害時にはどのような状況が現れるのかについて、地域の情報共有を図っておくことで、災害時の判断が有効に働くようになるでしょう。